

## 図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携 に関する企画・実施

著者	山本 順一，大保 信夫，氣谷 陽子，上原 由紀，安 島 明美，守谷 美佐子
雑誌名	筑波大学附属図書館研究開発室年次報告
巻	平成18-19年度
ページ	51-62
発行年	2008-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/110252">http://hdl.handle.net/2241/110252</a>

## (5) 図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施

図書館情報メディア研究科 山本 順一

システム情報工学研究科 学術情報メディアセンター 大保 信夫

附属図書館協力者 氣谷陽子、上原由紀、安島明美、守谷美佐子（平成19年度）

\*年度の記載がない者は、平成18～19年度

### コースウェア検討プロジェクト活動の概要

#### 1. コースウェアの開発

##### <平成18年度>

平成17年度に概略の検討を行ったコースウェアにもとづき、研究会のメンバーが分担して教本の原稿を執筆し、毎月1回程度研究会を開催した。また、授業を3学期に開設して主な履修対象を1年生と想定することになったため、履修生が教本に対してより親しみを持てるよう、教本の文体を附属図書館のキャラクターを用いた会話形式とするなどの修正を行い、『図書館情報リテラシー教本（試作版）』を作成した。

##### <平成19年度>

『図書館情報リテラシー教本（試作版）』に関して寄せられた修正意見などにもとづき、研究会でさらに検討を加えた。また、情報学群知識情報・図書館学類の総合科目「図書館情報リテラシー」を1時限目が講義、2時限目が演習を基本とする2時限続きの10週で実施することになったため、演習問題を拡充するとともに、教本を授業で用いる際に履修生が理解しやすいよう、一部で授業内容の順番を組み換えるなどして、『図書館情報リテラシー教本』の本編および回答編を作成した。

#### 2. 授業の実施

「表1 授業日程と担当者」に示したとおり、平成19年12月3日から平成20年3月3日まで実施した。

#### 3. アンケートの実施

2007年12月に開講した情報学群知識情報・図書館学類の総合科目「図書館情報リテラシー」の履修生および筑波大学学群学生（以下、一般学群学生）の情報環境と情報利用状況を把握することを目的として、情報リテラシーに関するアンケート調査を実施した。

#### 4. 図書館情報リテラシー研究会の開催

毎月1回程度、研究会を開催した。平成19年12月の授業開始以降は、終了した講義を担当したTAが授業の状況を報告した。図書館情報リテラシー研究会のメンバーは次のとおり。

安島明美、石井大輔、今井 武、上原由紀、岡部晋典、川戸理恵子、氣谷陽子、坂本 俊、千 錫烈、高瀬洋子、田嶋知宏、中山愛理、長屋 俊、名城邦孝、原 淳之、松崎博子、松戸宏予、松本圭以子、守谷美佐子、山本順一、吉田敏也（50音順）

#### 5. 外部発表

平成20年3月29日 日本図書館情報学会研究大会 主催：日本図書館情報学会 会場：東京大学

平成20年6月28日 情報ネットワーク法研究会 主催：情報ネットワーク法学会  
会場：龍谷大学法科大学院

## 総合科目「図書館情報リテラシー」授業の実施

### 1. 授業日程

平成19年度3学期の月曜日、1時限目（8:40-9:55）と2時限目（10:10-11:25）の2時限続き（75分×2コマ＝150分）を1週として表1のとおり実施した。第2週から9週までは、概ね、1時限目は教本にもとづく講義、2時限目は演習問題の回答と解説を行なった。

表1 授業日程と担当者

週	実施日	講義題目	担当者	TA	補助者
1	2007/12/3	はじめに	山本順一		
2	2007/12/10	第1講 ウェブ上の情報を用いた検索	原 淳之	岡部晋典	
3	2007/12/17	第2講 情報追跡の基礎的技法	原 淳之	坂本 俊	
4	2007/12/18	第3講 文献情報の読み方・書き方、引用のマナー	原 淳之	松戸宏予	
5	2008/1/7	第4講 公的情報に関するインターネット情報資源	原 淳之	中山愛理	
6	2008/1/14	第5講 筑波大学附属図書館ホームページ（Ⅰ）	氣谷陽子*	石井大輔	高橋雅一*
7	2008/1/23	第6講 筑波大学附属図書館ホームページ（Ⅱ）	守谷美佐子*	名城邦孝	中山知士*
8	2008/1/28	第7講 筑波大学附属図書館ホームページ（Ⅲ）	安島明美*	田嶋知宏	渡邊朋子*
9	2008/2/4	第8講 筑波大学附属図書館ホームページ（Ⅳ）	上原由紀*	坂本 俊	福井 恵*
10	2008/2/18	第9講 NII、JSTのデータベース	原 淳之	松崎博子	
11	2008/3/3	課題発表	山本順一		

\* 附属図書館職員

### 2. 担当者、TA、補助者

担当者は、研究開発室員である山本教授がコーディネータとして1週目と最終週を担当し、残りの9週のうち5週を図書館情報メディア研究科の原助教が担当した。また、本授業をとおして附属図書館が提供する資源を学習・研究に活用できるよう、知識や情報を獲得させるためには、現職の附属図書館の職員の知識やスキル、経験が欠かせないことから、附属図書館の情報資源を取り扱う第5講から8講の4週を、非常勤講師の発令を受けた図書館職員が担当することとした。

TA（Teaching Assistant）は、各週のコースウェアの開発に携わった研究会メンバーの大学院生が分担し、教材の準備、演習補助、各週の授業の報告にあたった。

補助者は、附属図書館の職員で構成される「図書館情報リテラシーワーキング・グループ」のメンバーであり、附属図書館職員が担当する4週分に関し、教材の検討や演習補助を行なって担当者を支援した。

### 3. 課題発表

授業の第1週に課題発表について説明し、自由に選択した課題を持ち、レポート作成を念頭にして授業に臨み、スキルの獲得に主体的に取り組むように求めた。課題発表は一人10分ずつとし、質疑応答の後、山本教授がコメントを加えた。なお、発表内容をレポートにまとめ、文献検索の経路や引用文献の書き方をみることができるよう、レポート作成に使用した情報源を3点以上示めすように求めた。

## 図書館情報リテラシーに関するアンケート調査

石井大輔、岡部晋典、気谷陽子、坂本 俊、千 錫烈、田嶋知宏、  
中山愛理、長屋 俊、名城邦孝、松崎博子、松戸宏予、松本圭以子、山本順一、吉田敏也（50音順）

### 1. 調査の背景と目的

2003年4月から高等学校で普通教科「情報」が必修科目になり<sup>1</sup>、2006年度以降、これを履修した学生が大学に入学するようになった。『高等学校学習指導要領』では、普通教科「情報」の目標が「コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる」とされ<sup>2</sup>、大学1年生の情報環境や学習経験が変化している。このため、図書館情報リテラシー能力を効率的に獲得させるには、学士課程において、どのような情報リテラシー能力が必要とされているかを把握する必要がある。本報告では、筑波大学学群学生の情報環境と情報利用状況にもとづき、総合科目「図書館情報リテラシー」に期待される効果を把握することを目的として実施したアンケート調査の調査結果を報告する。

### 2. 調査の概要

#### 2.1 調査対象と回答数

- ・履修生 15人 うち、回答数 14人（回答率93.3%）
- ・一般学群生 10,154人 うち、回答数170人（回答率 1.7%）

#### 2.2 調査時期

- ・履修生 事後調査：2008年3月3日（授業最終日）
- ・一般学群生 2008年2月1日（金）午後 から2008年2月15日（金）午前 まで（2週間）

#### 2.3 調査方法

Webアンケート（HTMLページ）への回答

なお、未回答の項目があった場合、回答を終了できないようにしたので、どの回答にも欠損値がない

- ・履修生 指定したURLにアクセスし、教室で授業時間内に回答
- ・一般学群生 附属図書館のトップホームページにバナーを開設し、リンクをたどって回答

なお、付録1に集計結果、付録2に質問紙（部分）を示した。また、質問と選択肢の原文は付録1の本文に示し、付録1に添えた図では、A1、A2のように選択肢の表示を省略した。

#### 2.4 分析方法

質問への回答別および学年別にクロス集計表を作成し、学年別の変数の特徴にもとづいて情報リテラシー教育の効果の分析を進める。なお、人数の構成比だけではクロス集計表の各セルの特徴が明確でない場合は、統計量として調整化残差を用いて変数の特徴を示した。調整化残差は、クロス集計表の各セルが標準的な状態からどの方向（正負）にどの程度（絶対値）隔たっているかを表わす統計量である。クロス集計表の各セルの特徴を統計的に分析する場合、観測値と期待値の差、すなわち残差が大きければ、そのセルは特異なセルである。しかし、残差のままではセルどうしの特徴の大きさを比較することができないため、セルどうし

の特徴の大きさを比較するために標準化残差を求め、これを分散で割って比較の精度を上げたものが調整化残差である。

当調査の分析に用いるクロス集計表について $\chi^2$ 検定を行なったところ、いずれも0.5%水準で有意でなかったが、調整化残差 $d_{ij}$ は平均0、標準偏差1の正規分布に近似的に従うことから $|d_{ij}|$ が2以上のカテゴリーをその変数の特徴的な箇所とみなすことができるため、 $|d_{ij}|$ が2以上あるいは2に近いものについて分析を進める。また、分析結果を明晰にするために、質問に設定した回答が順序を示す5つのカテゴリーである場合は、2番目を1番目に、4番目を5番目に統合した。同様に、学年別では、明確な分析を行なうために、2年生と3年生を統合し、履修生、1年生、2－3年生、4年生のカテゴリーを設定した。

### 3. 回答者の属性

#### 3.1 所属と学年

表2に、回答者の所属と学年のクロス集計表を示した。学群別では、情報学群の回答者が53人（31.0%）を占めるなどの偏りがみられるが、全ての学群の学生から回答があった。なお、2007年度に学群改組があり、旧組織と新組織が並存しているため、旧組織の学類は新組織に割り振って集計した。学年別では、4年生が64人（34.8%）を占め、最高学年である4年生の情報リテラシーへ関心の高さをうかがわせる。

なお、総合科目「図書館情報リテラシー」は、シラバスで標準履修年次が1、2年生に設定されているが、履修生の回答には4年生が1名含まれている。また、所属別内訳では、人文・文化学群と情報学群が4名と多く、社会・国際学群と医学群の履修生はいなかった。

表2 回答者の所属と学年のクロス集計表

学群	学年					履修生					合計
	1年生	2年生	3年生	4年生	小計	1年生	2年生	3年生	4年生	小計	
人文・文化学群	4	8	5	9	26	3			1	4	30 ( 16.3%)
社会・国際学群	1	2	2	5	10						10 ( 5.4%)
人間学群	1	1	3	5	10	2				2	12 ( 6.5%)
生物環境学群	4	1	5	8	18	1				1	19 ( 10.3%)
理工学群	4	7	8	15	34	2				2	36 ( 19.6%)
情報学群	11	17	13	12	53	4				4	57 ( 31.0%)
医学群	1	3	2	6	12						12 ( 6.5%)
体育・芸術	1		2	4	7	1				1	8 ( 4.3%)
合計	27	39	40	64	170	13				14	184 (100.0%)
	14.7%	21.2%	21.7%	34.8%	92.4%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%	100.0%

#### 3.2 図書館Webアクセス数と来館頻度

表3に、1週間あたりの附属図書館のWebサイトへのアクセス数と来館利用のクロス集計表を示した。「Q7 筑波大学附属図書館のWebサイトに週に何回くらいアクセスしますか？」という質問に対する答えで最も多いのは「2－4回」の72人（39.1%）である。一方、「Q23 1週間に平均どれくらいの頻度で附属図書館に行きますか？」という質問に対する答えで最も多いのは1回の64人（34.8%）であった。ただし、両者の相関係数を求めると0.44と極弱い相関を示し、図書館Webアクセス数が多い利用者は来館頻度も高い傾向がある。表3のセルのうち、人数が最も多いのは図書館Webアクセス数も来館頻度も「2－4回」の30人（全体の16.3%）である。

なお、一般学群生を対象とする調査は、図書館のWebページにリンクを張って実施したWeb調査であるため、一般学群生の回答率が低いこと、回答者が図書館やインターネットの利用者に偏っている。また、履修生を対象とする調査は、授業中に実施したために回答率が高く、履修生が図書館やインターネットの利用者に関心が高い学生に偏っている。しかしながら、当調査では、学年別の情報利用や情報環境の特徴にもとづき、学士課程初年次教育としての情報リテラシー教育の効果を検討したいので、回答者が図書館やインターネットの利用者に関心が高い学生に偏っていることは、分析上の大きな障害とはならないと考えられる。

表3 附属図書館のWebサイトへのアクセスと来館利用のクロス集計表

		Q23来館頻度					合 計
		0回	1回	2-4回	5-9回	10回	
Q7 図書館Web アクセス数	0回	10	6	5	0	0	21 ( 11.4%)
	1回	3	25	16	5	1	50 ( 27.2%)
	2-4回	1	24	30	14	3	72 ( 39.1%)
	5-9回	0	4	8	14	2	28 ( 15.2%)
	10回	0	5	2	6	0	13 ( 7.1%)
合 計		14 (7.6%)	64 (34.8%)	61 (33.2%)	39 (21.2%)	6 (3.3%)	184 (100.0%)

#### 4. 情報環境と情報利用

##### 4.1 情報端末

図1に、「Q5 インターネット利用はケータイ中心ですか、パソコン中心ですか?」という質問に対する回答の人数を学年別の構成比で示した。1年生と2-3年生ではケータイが10%程度を占めるが、4年生では4.7%に半減している。これは、ケータイで受発信できる情報の規模が小さく、4年生が学習、研究に利用する文献の検索や利用には不十分であることを示唆し、情報リテラシー教育においては、ケータイを情報端末として取り上げる必要性が低いと考えられる。

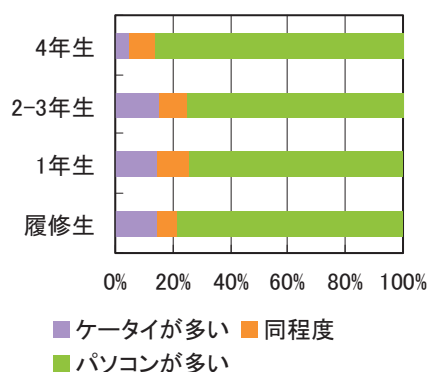


図1 情報端末 (人数)

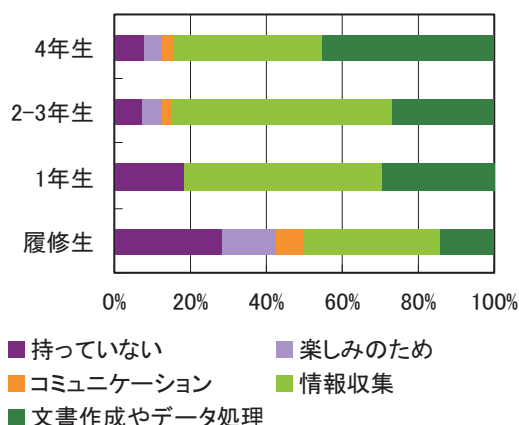


図2 自分のパソコンの使用目的 (人数)

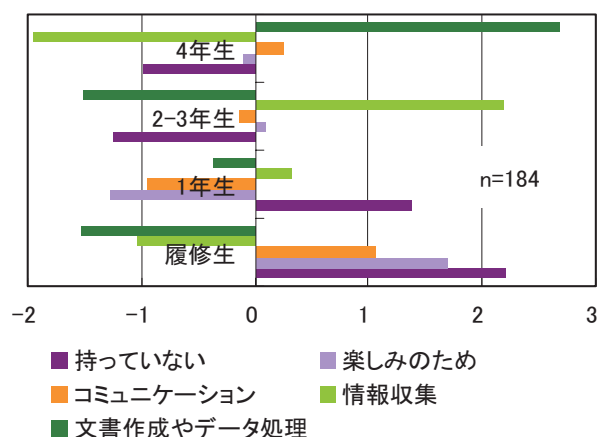


図3 自分のパソコンの使用目的 (調整化残差)



## 4.2 パソコンの所有と利用目的

図2に、「Q9 自分のパソコンを持っていますか？ 持っている場合、自分のパソコンを使う主な目的は次のうちどれですか？」という質問に対する回答を学年別に示した。変数の特徴を図3の調整化残差でみると、2－3年生は「主にWebページの利用など情報収集や閲覧に使用」が多いという特徴を示し、4年生は「主にワープロや演算など文書作成やデータ処理に使用」が多いという特徴を示している。

一方、教育用計算機端末に関する「Q11 履修申請等の諸手続きや授業の課題提出以外で、教育用計算機端末を使っていますか？ 使う場合、主な目的は次のうちどれですか？」という質問に対する回答の特徴を、図4の人数、図5の調整化残差でみると、2－3年生は「主に文書やデータの作成に使用」が多いという特徴を示している。2－3年生は、教育用端末ではレポート作成、自分のパソコンでは情報収集と使い分けていることが考えられる。

なお、履修生では、教育用端末でも自分のパソコンでも「主にゲームなど楽しみのための使用」が多いという特徴を示す。履修生は情報リテラシーに関心が高いと考えられ、履修生に授業に対する期待を聞いたところでは、「統計データの検索」、「主題分析」、「ユーザインタフェース」など、情報リテラシーへの関心の高さを示す答えが多く、楽しみのための情報利用と学習や研究のための情報利用の関連性がうかがわれる。情報リテラシー教育においては、学習、研究に役立つコンテンツの解説を行なう際に、旅行情報や生活情報など、身近なコンテンツを入口として用いることが考えられる。

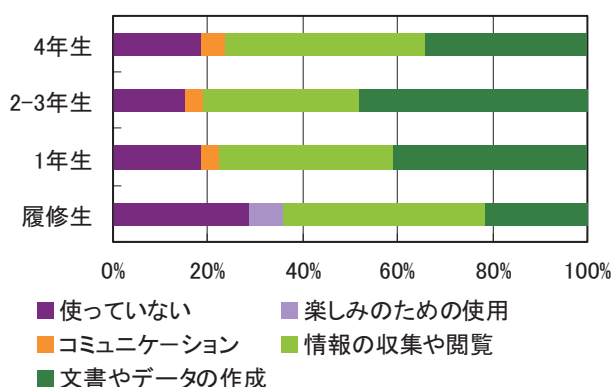


図4 教育用端末の使用目的（人数）

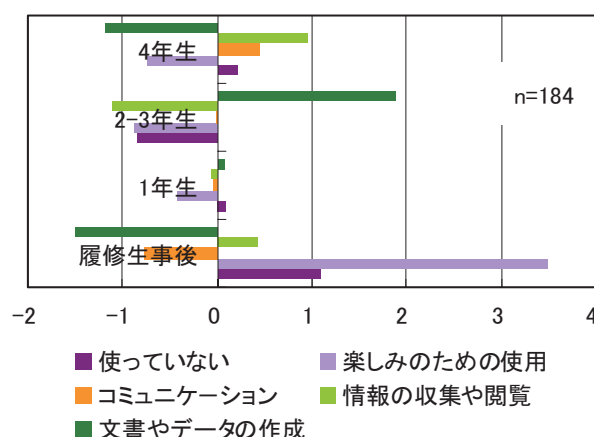


図5 教育用端末の利用目的の調整化残差

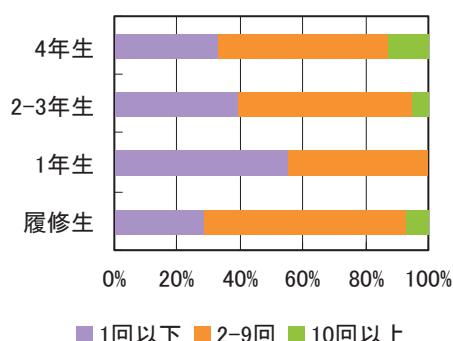


図6 附属図書館Web利用頻度（人数）

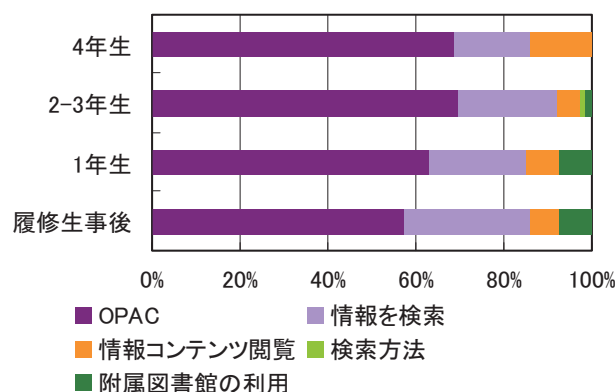


図7 利用するページ（人数）

#### 4.3 附属図書館Web利用頻度と利用目的

図6に、「Q7 筑波大学附属図書館のWebサイトに週に何回くらいアクセスしますか？」という質問に対する回答の学年別人数を示した。1年生は附属図書館のWebサイトの利用頻度が低い学生が多く、学年が上がるに従って附属図書館のWebサイトの利用頻度が高くなっている。

図7に「Q8 附属図書館のWebサイトで最も良く利用するページはどれですか？」という質問に対する回答の学年別人数を示した。全体の67.4%を「OPAC（蔵書検索）」が占め、学群学生の附属図書館のWebサイトの利用の多くがOPACで占められている。

図8に示した調整化残差をみると、1年生は「利用案内」など、附属図書館の利用に関するページが多いという特徴を示している。1年生は附属図書館自体に関する情報や知識を求めており、情報リテラシー教育においては、図書館のガイダンスを要素の一つに加える必要性が考えられる。なお、4年生は「電子ジャーナル」など、情報コンテンツが閲覧できるページが多いという特徴を示しており、本プロジェクトの対象は学士課程の初年次教育であるが、4年生の情報利用に合わせたコンテンツの解説の必要性が考えられる。

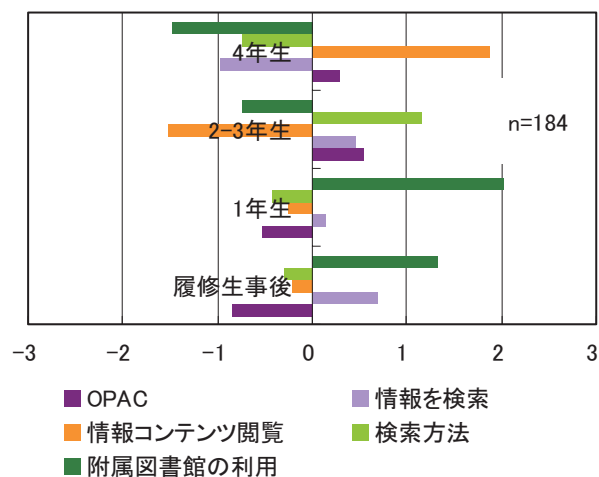


図8 利用するページ（調整化残差）

#### 4.4 来館利用の頻度と利用目的

図9に、「Q23 一週間に平均どれくらいの頻度で附属図書館に行きますか？」という質問に対する回答の学年別人数を示した。全体として1回以下の学生が42.4%を占めるが、2-3年生では50.6%と半数を上回っている。

図10に「Q26 附属図書館に行く目的で、一番多いのは次のうちどれですか？」という質問に対する回答の学年別人数を示した。全体の41.8%を「レポート作成等授業に関連する調べもの、資料収集」が占め、学群学生の附属図書館の利用の多くが授業に関連する調べもので占められている。1年生は調べものを目的とする利用が33.3%であるが、学年が上がるに従って調べものを目的とする利用が増え、4年生では46.9%と半数近くを占めている。図9によれば、4年生は他の学年に比べて一週間に平均5回以上来館する学生が多く、しかも調べものを目的とする利用が多いことから、適切な情報リテラシー能力を獲得させる必要性が高いと考えられる。

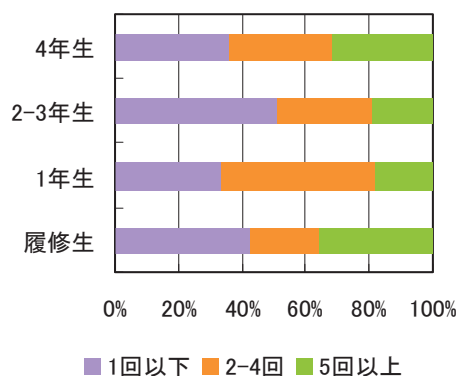


図9 来館頻度（人数）

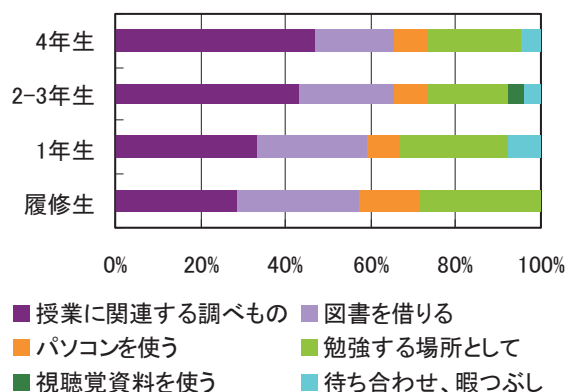


図10 来館目的（人数）



## 5. まとめ

2007年12月に開講した情報学群知識情報・図書館学類の総合科目「図書館情報リテラシー」の履修生および筑波大学学群学生（以下、一般学群学生）の情報環境と情報利用状況を把握することを目的として情報リテラシーに関するアンケート調査を実施した。調査結果にもとづき次のようにまとめることができる。

### 5.1 ケータイの取り扱い

インターネット利用の中心がケータイである学生は全体の10%程度で、4年生では4.7%に過ぎなかったことから、情報リテラシー教育においては、ケータイを情報端末として取り上げる必要性が低いと考えられる

### 5.2 楽しみとしての情報コンテンツ利用から学習、研究目的の利用へ

履修生は情報利用に関心が高いと考えられるが、パソコンの使用目的として、楽しみのための使用が多いという特徴を示し、楽しみのための情報利用と学習や研究のための情報利用の関連性がうかがわれたため、情報リテラシー教育においては、学習、研究に役立つコンテンツの解説を行なう際に、旅行情報や生活情報など、身近なコンテンツの紹介、解説の入口として用いることが考えられる

### 5.3 情報コンテンツの解説

4年生の情報利用に合わせたコンテンツの解説を内容とする情報リテラシーのプログラムが別途必要と考えられる

### 5.4 調査方法の解説

4年生は他の学年に比べて来館頻度が高くて、調べものを目的とする来館利用が多いことから、4年生になるまでに、適切な情報リテラシー能力を獲得させる必要性が高いと考えられる。

## 謝辞

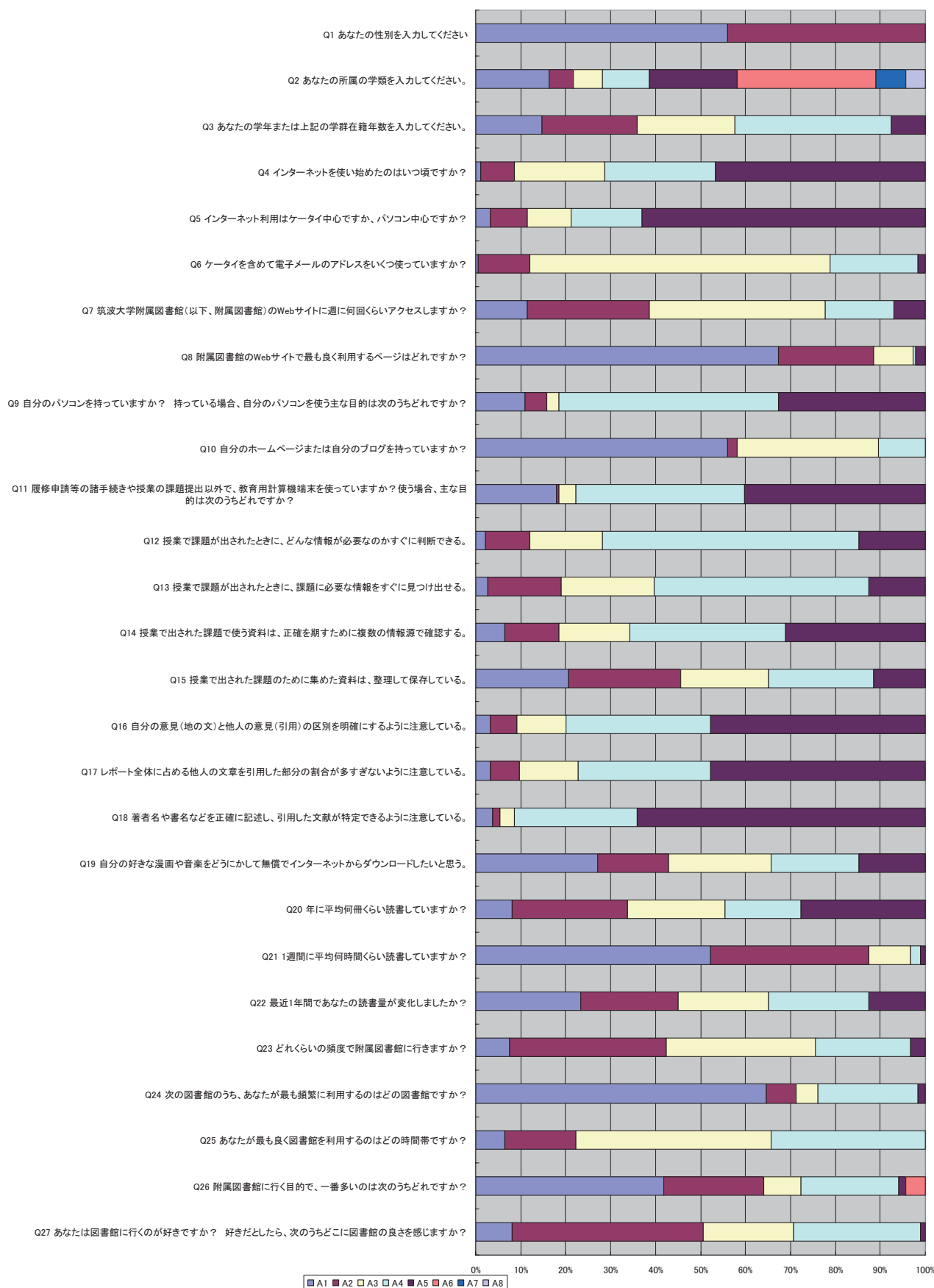
アンケート調査の実施にあたり、附属図書館情報管理課企画渉外係の岡部係長、福井係員にご協力いただきました。

## 注

<sup>1</sup> 文部科学省 『高等学校学習指導要領』[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/990301d.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d.htm)、（参照 2008-1-5）。

<sup>2</sup> 前掲 1)「第10節 情報」。

筑波大学学群学生の情報リテラシーに関するアンケート調査



## 付録2 質問紙（部分）

※最初の部分と最後の部分を示した。質問項目やプルダウンメニューによる選択肢については、付表1の単純集計を参照。

### 筑波大学学群学生の情報リテラシーに関するアンケート調査

このアンケート調査は、図書館情報資源を活用し、利用スキルを身につけていただくために、総合科目のひとつとして本年度から実施している「図書館情報リテラシー」の教授法とコースウェアの改善のために行うものです。

- この調査の目的は上記の通りです。学群学生の皆様にこのアンケート調査へのご協力をお願いします。
- ご回答いただいたデータは統計的な処理を行ないますので、個人名や個別のデータが明らかになることはありません。
- 調査結果の分析を正確に行なうために、本調査へのご回答は、一人一回とさせていただきます。
- ご回答いただく上で不明な点がありましたら、“xxxxxx@gmail.com”までメールでお問い合わせください。

情報学群知識情報・図書館学類の総合科目「図書館情報リテラシー」担当

図書館情報メディア研究科教授 山本順一（附属図書館研究開発室 室員）

- 
- あなた自身のことをお答えください。

1. あなたの性別を入力してください。

（中略）

- 附属図書館を利用して困ったこと、改善して欲しいことがありますか？ その他、ご意見などがあれば入力してください。

回答

ご協力ありがとうございました。

あなたの意見を総合科目「図書館情報リテラシー」の改善に役立てるとともに、  
附属図書館のサービスの向上にも役立てさせていただきます。

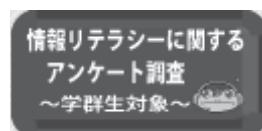


図11 調査期間中、附属図書館のトップページに置かれたバナー

※凡例

質問番号 質問

選択肢=回答件数（構成比）、…

- Q1 あなたの性別を入力してください  
男=103（56.0%）、女=81（44.0%）
- Q2 あなたの所属の学類を入力してください。  
人文・文化学群=30（16.3%）、社会・国際学群=10（5.4%）、人間学群=12（6.5%）、生物環境学群=19（10.3%）、理工学群=36（19.6%）、情報学群=57（31.0%）、医学群=12（6.5%）、体育・芸術=8（4.3%）
- Q3 あなたの学年または上記の学群在籍年数を入力してください。  
1年=27（14.7%）、2年=39（21.2%）、3年=40（21.7%）、4年以上=64（34.8%）、履修生事後=14（7.6%）  
※履修生を学年に割り振った場合  
1年=40（21.7%）、2年=39（21.2%）、3年=40（21.7%）、4年以上=65（35.3%）
- Q4 インターネットを使い始めたのはいつ頃ですか？  
2007年-2008年=2（1.1%）、2005年-2006年=14（7.6%）、2003年-2004年=37（20.1%）、2001年-2002年=45（24.5%）、2000年以前=86（46.7%）
- Q5 インターネット利用はケータイ中心ですか、パソコン中心ですか？  
ほとんどケータイ=6（3.3%）、ややケータイが多い=15（8.2%）、同程度=18（9.8%）、ややパソコンが多い=29（15.8%）、ほとんどパソコ=116（63.0%）
- Q6 ケータイを含めて電子メールのアドレスをいくつ使っていますか？  
1=1（0.5%）、2=21（11.4%）、3-4=123（66.8%）、5-9=36（19.6%）、10以上=3（1.6%）
- Q7 筑波大学附属図書館のWebサイトに週に何回くらいアクセスしますか？  
0回=21（11.4%）、1回=50（27.2%）、2-4回=72（39.1%）、5-9回=28（15.2%）、10回以上=13（7.1%）
- Q8 附属図書館のWebサイトで最も良く利用するページはどれですか？  
OPAC（蔵書検索）=124（67.4%）、「データベース」など、情報を検索するページ=39（21.2%）、「電子ジャーナル」など、情報コンテンツが閲覧できるページ=16（8.7%）、「レファレンス」など、検索方法に関するページ=1（0.5%）、「利用案内」など、附属図書館の利用に関するページ=4（2.2%）
- Q9 自分のパソコンを持っていますか？ 持っている場合、自分のパソコンを使う主な目的は次のうちどれですか？  
持っていない=20（10.9%）、主にゲームなど、楽しみのための使用=9（4.9%）、主にメールなど、コミュニケーションの手段として使用=5（2.7%）、主にWebページの利用など、情報の収集や閲覧に使用=90（48.9%）、主にワープロや演算など、文書の作成やデータ処理に使用=60（32.6%）
- Q10 自分のホームページまたは自分のブログを持っていますか？  
両方とも持っていない=103（56.0%）、ホームページのみを持っている=4（2.2%）、ブログのみを持っている=58（31.5%）、両方とも持っている=19（10.3%）
- Q11 履修申請等の諸手続きや授業の課題提出以外で、教育用計算機端末を使っていますか？使う場合、主な目的は次のうちどれですか？  
使っていない=33（17.9%）、主にゲームなど楽しみのための使用=1（0.5%）、主に誰かとのコミュニケーションに使用=7（3.8%）、主に情報の収集や閲覧に使用=69（37.5%）、主に文書やデータの作成に使用=74（40.2%）
- Q12 授業で課題が出されたときに、どんな情報が必要なのかすぐに判断できる。  
当てはまらない=4（2.2%）、まあ当てはまらない=18（9.8%）、どちらともいえない=30（16.3%）、まあ当てはまる=105（57.1%）、当てはまる=27（14.7%）
- Q13 授業で課題が出されたときに、課題に必要な情報をすぐに見つけ出せる。  
当てはまらない=5（2.7%）、まあ当てはまらない=30（16.3%）、どちらともいえない=38（20.7%）、まあ当てはまる=88（47.8%）、当てはまる=23（12.5%）

- Q14 授業で出された課題で使う資料は、正確を期するために複数の情報源で確認する。  
当てはまらない＝12 (6.5%)、まあ当てはまらない＝22 (12.0%)、どちらともいえない＝29 (15.8%)、まあ当てはまる＝64 (34.8%)、当てはまる＝57 (31.0%)
- Q15 授業で出された課題のために集めた資料は、整理して保存している。  
当てはまらない＝38 (20.7%)、まあ当てはまらない＝46 (25.0%)、どちらともいえない＝36 (19.6%)、まあ当てはまる＝43 (23.4%)、当てはまる＝21 (11.4%)
- Q16 自分の意見（地の文）と他人の意見（引用）の区別を明確にするように注意している。  
当てはまらない＝6 (3.3%)、まあ当てはまらない＝11 (6.0%)、どちらともいえない＝20 (10.9%)、まあ当てはまる＝59 (32.1%)、当てはまる＝88 (47.8%)
- Q17 レポート全体に占める他人の文章を引用した部分の割合が多すぎないように注意している。  
当てはまらない＝6 (3.3%)、まあ当てはまらない＝12 (6.5%)、どちらともいえない＝24 (13.0%)、まあ当てはまる＝54 (29.3%)、当てはまる＝88 (47.8%)
- Q18 著者名や書名などを正確に記述し、引用した文献が特定できるように注意している。  
当てはまらない＝7 (3.8%)、まあ当てはまらない＝3 (1.6%)、どちらともいえない＝6 (3.3%)、まあ当てはまる＝50 (27.2%)、当てはまる＝118 (64.1%)
- Q19 自分の好きな漫画や音楽をどうにかして無償でインターネットからダウンロードしたいと思う。  
当てはまらない＝50 (27.2%)、まあ当てはまらない＝29 (15.8%)、どちらともいえない＝42 (22.8%)、まあ当てはまる＝36 (19.6%)、当てはまる＝27 (14.7%)
- Q20 年に平均何冊くらい読書していますか？  
2冊以下＝15 (8.2%)、2－10冊＝47 (25.5%)、11－20冊＝40 (21.7%)、21－30冊＝31 (16.8%)、30冊以上＝51 (27.7%)
- Q21 一週間に平均何時間くらい読書していますか？  
5時間以下＝96 (52.2%)、5－10時間くらい＝65 (35.3%)、11－20時間くらい＝17 (9.2%)、21－30時間くらい＝4 (2.2%)、31時間以上＝2 (1.1%)
- Q22 最近1年間であなたの読書量が変化しましたか？  
減った＝43 (23.4%)、どちらかといえば減った＝40 (21.7%)、変わらない＝37 (20.1%)、どちらかといえば増えた＝41 (22.3%)、増えた＝23 (12.5%)
- Q23 どれくらいの頻度で附属図書館に行きますか？  
1週間に平均1回＝14 (7.6%)、1週間に平均2－4回＝64 (34.8%)、1週間に平均5－9回＝61 (33.2%)、1週間に平均10回以上＝39 (21.2%)、6 (3.3%)
- Q24 次の図書館のうち、あなたが最も頻繁に利用するのはどの図書館ですか？  
中央図書館＝119 (64.7%)、体芸図書館＝12 (6.5%)、医学図書館＝9 (4.9%)、図情図書館＝41 (22.3%)、つくば市立中央図書館＝3 (1.6%)
- Q25 あなたが最も良く図書館を利用するのはどの時間帯ですか？  
9時－12時＝12 (6.5%)、12時－15時＝29 (15.8%)、15時－18時＝80 (43.5%)、18時－22時＝63 (34.2%)
- Q26 附属図書館に行く目的で、一番多いのは次のうちどれですか？  
レポート作成等授業に関連する調べもの、資料収集＝77 (41.8%)、図書を借りる＝41 (22.3%)、パソコンを使うため＝15 (8.2%)、勉強する場所として＝40 (21.7%)、視聴覚資料を使うため＝3 (1.6%)、人との待ち合わせ、暇つぶしのため＝8 (4.3%)
- Q27 あなたは図書館に行くのが好きですか？好きだとしたら、次のうちどこに図書館の良さを感じますか？  
嫌い＝15 (8.2%)、好き：図書館全体の雰囲気＝78 (42.4%)、好き：図書館の施設・設備＝37 (20.1%)、好き：図書館の蔵書＝52 (28.3%)、好き：図書館のサービス＝2 (1.1%)

(以上)